

2022 年 12 月 30 日

各 位

株式会社三井住友銀行

生野金属株式会社に「SDG s 推進融資」を実施

株式会社三井住友銀行（頭取 CEO：高島 誠）は、生野金属株式会社（代表取締役社長：小西 康晴）に「SDG s 推進融資」を実施いたしました。

「SDG s 推進融資」は、融資実行時に、株式会社三井住友銀行と株式会社日本総合研究所（代表取締役社長：谷崎 勝教）が、企業のSDG s（※）に関する現状の取組状況を確認した上で、本業を通じたSDG s 貢献への道すじ（ロジック）を分析し、SDG s の取組推進に向けたアドバイス等をご提供する融資商品です。

今回対象となりました、生野金属株式会社については、以下に記す事業を通じて、SDG s の目標達成に向けた貢献が期待できると判断されました。

① 様々な厚紙を用いたプラスチック代替容器の製造による新たな包装容器の提案

目標 14 海の豊かさを 守ろう	14.1 2025 年までに、海洋ごみや富栄養化を含む、特に陸上活動による汚染など、あらゆる種類の海洋汚染を防止し、大幅に削減する。
目標 12 つくる責任 つかう責任	12.5 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。

② シールラベル不要の 18 リットル缶による食品バリューチェーンの効率化向上と環境負荷低減

目標 8 働きがいも 経済成長も	8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。
目標 9 産業と技術革新の 基盤をつくろう	9.5 2030 年までにイノベーションを促進させることや 100 万人当たりの研究開発従事者数を大幅に増加させ、また官民研究開発の支出を拡大させるなど、開発途上国をはじめとするすべての国々の産業セクターにおける科学研究を促進し、技術能力を向上させる。
目標 12 つくる責任 つかう責任	12.4 2020 年までに、合意された国際的な枠組みに従い、製品ライフサイクルを通じ、環境上適正な化学物質やすべての廃棄物の管理を実現し、人の健康や環境への悪影響を最小化するため、化学物質や廃棄物の大気、水、土壌への放出を大幅に削減する。

③ 誰もが働きやすい職場環境の整備を通じた、女性・外国人等が活躍する職種・職位の拡大、働きがいの向上

<p>目標 8 働きがいも 経済成長も</p>	<p>8.2 高付加価値セクターや労働集約型セクターに重点を置くことなどにより、多様化、技術向上及びイノベーションを通じた高いレベルの経済生産性を達成する。</p>
<p>目標 5 ジェンダー平等を 実現しよう</p>	<p>5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画及び平等なリーダーシップの機会を確保する。</p>

三井住友銀行では、「SDGs 推進融資」により、本業を通じ、SDGs が達成される社会の実現に貢献をしております。



厚紙（エリプラペーパー）を
プレス絞り加工した紙皿。
容器の脱プラ・減プラに貢献。



右：印字前の Labelless®
左：レーザー印字することで製品情報が記載された Labelless®

注) Labelless とはレーザーマーキング用顔料を含んだ白いラベル部を有し、レーザー印字機を使って、必要な時に、必要な分だけ、必要な情報を印字できるシールラベルが不要な 18 リットル缶。

*Labelless®は生野金属の登録商標です。

<ご参考>

※ SDGs とは

Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称。国連総会で採択された、新興国だけでなく先進国等あらゆる国と地域が、貧困や平等、教育、環境等、「誰も取り残されない世界」の実現を 2030 年までに目指す 17 の目標と 169 のターゲットのことです。

以 上